

新しい年を迎えるといつても

世の中の全てが変わるわけ

ではないのですが、「

新しい年の始まり」と

いう事で、自分の周りが新

しい気持ちに満ちているようで、

心も改まったようにかんじられま

す。昨年と今年と時の流れという点から考

えれば、何ら変わらないわけで、大晦日か

ら一夜明けて新年となつても、鏡に映し出

される顔も形も前日と全く同じで、何も変

わつた所はありません。

しかしながら、人間の脳は何億という細

胞から出来ていて、そのうち毎日十五万個

死滅し新陳代謝によつて、その細胞は常に

入れ変わつているのだそうです。

自分は今、昨日に変わらず生きていると

思つていますが、実は、今日の私は昨日の

私そのものではないわけで、明日の私も今



日の私ではないことになります。このよう

に今という時は、二度と私達には訪れない

ことを思うと、一度しかない今の自分を無

駄に終わらせたくないものだと思います。

一休さんの歌に

かど松や冥途の旅の一里塚

めでたくもあり めでたくもなし

とあり、又古歌にも

世の中は 今日よりほかはなかりけり

昨日はすぎつ 明日は知られず

と歌われています。

せっかく授かった今の人生ですから、大切に

に生きたいものだと思ふ新年を迎え願うもので

す。

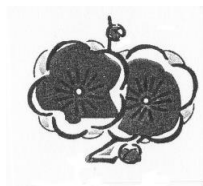
特別志納者の紹介

○為先祖代々報恩供養

金 百萬円

匿名希望者

殿



○為先祖代々報恩供養

金 百萬円

杉本 喜盛 殿

○為嚴正院孝徹禪心居士菩提供養

金 参拾萬円

永松 恵子 殿

何度かお話したように、この総世寺を護つて下さっているのは、弁財天との古書もあり、いつの日か弁財天をおまつりした弁天堂を再建したいと思っております。

昨年、近藤静江氏より、御寄付いただいた御浄財にて弁財天を購入できました。

このたびの杉本氏、永松氏、匿名希望者様よりの御寄付は、弁天堂再建の基金として積み立てさせていただき、再建の際には、寄付单をもつて、長く御名前を残させていただけようと思っております。ありがとうございます。

住職から

今、総世寺は画期的な変容を遂げています。皆さんが、このお寺を誉らしく思えること、そして皆でこのお寺を護持してという、楽しく思えること——そんなことにつながることであれば、可能な限り、実行に移していきたいと思ひ、昨年はいろいろな取り組みをしてまいりました。

よく戦争を扱った小説の中に「指揮官先頭」という言葉を目にします。

よく言つたもので、「もの共、進め」であつてはならないし、「もの共、続け」の卒先垂範にこそ、皆がひとつになるつ鍵があるように思

います。

とにもか

くにも、

教仏者の

はしくれとし



て、皆さんの先頭に立って、お寺の再建に向かつて、この一年も頑張ろうと思っております。御協力をお願い申し上げます。



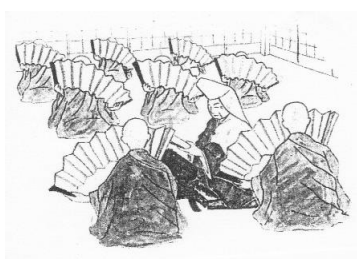
お寺から

○ザル菊観賞

昨年、十月末から十一月にかけて鈴木三郎さん御指導の下に、当寺でもザル菊が百鉢程、植えられたものが開花致しました。第一回としては、まあまあが出来ではなからうかと総代の小泉さんと共に自画自賛しています。二十七年度は、有志の方々と共に心を込めて、ザル菊をお世話し、秋には、昨年以上のものをおみせしたいと思っております。

○第二駐車場を整備中

公民館の横の木を伐採し、ただ今第二駐車場を整備中です。このスペースは、駐車場としての機能というより、盆踊り会場や何かの折のイベントなど、地域の人々に多に活用していただき、多くの方々が集える場の1ツにしていきたいと思っております。手したものです。高齢化や過疎化と、地域の人々の往来がなくなっていく中であつて、互いを思い合つたり、暖い言葉をかけ合つたり出来る場を、お寺は提供できたら嬉しく思っています。



○大般若会の開催

昨年暮に、御案内申しましたが、本年度より大般若会の期日が成人の日（本年は十一月十一日）の午前十一

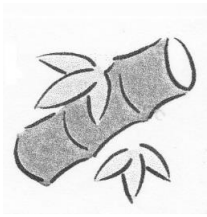
時に変更となりました。

多勢のお坊さま方が、各々配られる「大般経」を一斉に、アコーデイオンを開閉するのようにパラパラめくる「転読」という独特のお経のよみ方をする法要です。

誰もが改まった気持ちになるのが、お正月です。充実した一年を過ごす為にも、是非、この日に御参拝下さいまして、静かに自分の在りようを見つめ直し、新たな決意を仏前に誓願したいものです。

未だお札をお申し込みでない方は、檀家様は勿論、お心のあります方はどなたでも、お申し込みをお受けしております。

お一人でも多くの方に、御参拝・御焼香・御祈願いただけるようおすすすめ申しあげます。



尚、当日御参拝の方には、一軒につき一ツ、輪袈裟をお渡し申します。

お坊様方が、左肩から右腋下にかけて、左の肩をおおうように長方形の布を掛けておられますが、そのお袈裟を簡略化したものが、輪袈裟です。

仏教徒、総世寺の檀家であることを、誉りとしていただけるよう、お渡しするもので、大般若会、施餓鬼会、又法事などの仏事、祭事に首から下げて胸に垂らしてお臨み下さい。

○雑木林の整備

小林誠さんの御協力のもと、最終処分場の旧クヌギ林といわれる雑木林を整備しています。又坊主墓の後ろの杉・ヒノキ・サワラの木も、長い間に、幹が空洞化して倒れるおそれがあることがわかりました。危険解除の為、又、この先木を切る能力のある方もなかなか育ちにくいことを考えま

して伐採いたしております。

アチコチ木を伐採することに寂しさを感じられる方もおられようとは思いますが、折をみては、新たな植樹も考えています。何度もう言うようですが、お寺の景観をよくして、人々が集いやすい環境づくりをめざしていきます。

多くの方々の御尽力や御理解、御協力をいただき、感謝しています。

○新しくなった昼と照明

本堂内の昼や皆さんが法要の際おすわりなられる頭上の照明を明かるいものに交換いたしました。

引き続き、御本尊さまの前の大間^{ダイマ}も照明を変え、明るく御参拝できますよう手配しております。

小閑 私は今、仲の良いお寺の奥様、十名程と、先生をお呼びして「写仏」の勉強を

始めました。

会場主なので、当然、私は皆勤なのですがお仲間も、お寺の仕事や保育園やいろいろなお稽古の先生をなさっている方も多く、月三回の集まりも、月一度出席なさるのが精々という方が多く、全員揃って、勉強するということは余りありません。

「ゆつくり、末長く続けて勉強できたらいいネ」といったスタンスでやっています。

そのような方のお一人がたまたま用でいらした折「私、二枚絵が完成したの。額に入れて飾っちゃったのヨ」と、下手でも、自分を奮い立たせて、新たな挑戦をする為の足がかりにと、絵を飾った事を伝えると「みせて」ということで、その場所へ案内しました。「よく描けているヨ」とおほめの言葉をいただいて、チョット得意になっていましたら、彼女はその絵に向かつて合掌し礼拝をしたではありませんか。

私は驚くと共に深い感動を覚えました。

私は毎朝、ご飯やお水を仏さまにお供えし、方丈さんの朝のお勤め（お経）に参加します。そして夕方、御仏飯を下げる時を含め本堂に入室し、手を合わせ、お線香をあげたり、心の中で仏さまと対活する機会が他のお寺の奥さまより密であるとの自負がありました。でも、しろうとが描いた仏さまの絵にすら、静かに手を合わせる友人の姿をみて、誠に恥ずかしく、この人は何と謙讓な人なのかと心を打たれ、自分の仏さまへの姿勢がまだまだ、とるにたらぬものであつたことに気づかされました。

先人が、それこそ軒から落ちる雨音や、誰かがけ飛ばした小石のころがる音で、ハツと悟りの境地に入ったという話しを読んだことがあります。オーバーな表現かもしれませんが、私も言葉に表わすことができにくいのですが、何かに深く心を打たれ

た思いがしました。手を合わせ、今ある自分は、全て仏さまのはからいの中にあるという感謝の思いで、謙虚に生きたい、そして全ての人、全てのことにより優しい思いを抱いて生きたいとある時期から、祈りのような思いで日を送ってきたつもりでしたのに、自分の足りなさがハッキリわかり、とてもとても勉強になりました。

これまでを振り返ってみると、何かに気づくということが確かにありました。そういう瞬間は、誰にでも、何度でもあると思います。そして、いろいろなことに気づきながらいくと、それまでの生き方、想いは違つた方向に窓が開けてくるのだなとつくづく思います。辛いことや辛抱しなくてはならないことの多い人生であつても、こんな経験をすると、生きるということもいものだナアと思えます。

（安藤百合子）

平成二十七年 年回表

一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
五十回忌	昭和四十一年
百回忌	大正五年

本年度、年回にあたっておられる仏さまのおられるお宅様には、お正月明けに、ハガキにて御通知申し上げます。

すでに昨年末、年回法要がお済みの方、又御法事のお申し込みをなさっている方にもそのハガキがいくこともあるかとは存じませんが、通信事務は、機械的に行っておりますので、ご了解の上御要赦下さい。

平成二十七年 年回表

一周忌	平成二十六年
三回忌	平成二十五年
七回忌	平成二十一年
十三回忌	平成十五年
十七回忌	平成十一年
二十三回忌	平成五年
二十七回忌	平成元年
三十三回忌	昭和五十八年
五十回忌	昭和四十一年
百回忌	大正五年
